教育と文化

みんなで考えよう
人権・同和問題
No.234

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

星影のワルツ

『別れることはつらいけど、仕方がないんだ君のため、別れに星影のワルツをうたおう』千昌夫さん往年のヒット曲『星影のワルツ』の一節です。今でも送別会の二次会などで歌われています。

さて、この星影のワルツ、20年ほど前に『結婚差別の歌』と定説化された時期がありました。部落差別によって愛を引き裂かれた青年の慟哭を綴ったとされる歌詞は、同和問題の研修会にも教材として取り上げられ人々の心を打ちました。しかし後年、その誕生秘話は作詞家の白鳥国枝さんによって否定されました。歌詞が生まれたエピソードはほかにあったのです。

それではなぜ、このような都市伝説が生まれたのでしょう。諸説あるようですが、確かに言えることは星影のワルツの歌詞と同じ体験をした人がいたということです。多くの人の共感を呼んだ背景には、生まれた場所や育った場所で人の値打ちを決めようとする部落差別が、当時の社会に存在していたということなのです。『時代を映す鏡』である歌謡曲が教えてくれます。

時は流れ、『人権の世紀』と呼ばれる21世紀になりました。果たして部落差別はなくなったのでしょうか。過去の問題だと言う人もいますが、いじめと同じで見えにくくなっているだけなのではないでしょうか。『ない』ということと『見えていない』ということは違います。差別は見ようとしなければ見えません。差別をなくすためにはまず、私たち一人一人が差別に気づく確かな人権感覚を持たなければいけないのです。

ラブストーリーのエンディングは、長渕剛さんの『乾杯』のようであってほしいと願っています。

郷土の文化財

伊万里湾の歴史シリーズ⑩

●問合先　生涯学習課文化財係（☎㉓3186）

七つ島の歴史

平成29年は伊万里港開港50周年の節目の年でした。伊万里湾開発に大きな役割を果たした臨海工業団地として『七ツ島工業団地』があります。

工業団地ができる前の七つ島は、松に覆われたいくつかの島々があり、肥前松島とも呼ばれ、海水浴場などもありました。

昭和46年（1971年）、県は名村造船所の進出を機に七つ島一帯を工業団地に造成することを決めました。

埋め立ては、七つ島に向かって突き出た半島部分を削り海岸部を埋め立てたのですが、その半島部分には金剛島遺跡と源平岩洞穴遺跡があり、昭和46年に県教育委員会が調査を行なっています。

調査の結果、金剛島遺跡では縄文時代前期（約6500年前）の土器や石器が数多く出土しました。源平岩洞穴遺跡は入口の幅が約15m、最大奥行が約6mの洞穴で、縄文時代前期から弥生時代にかけての土器が出土しました。どちらの遺跡も海浜地域での生活を物語る遺跡です。

↑ありし日の七つ島全景